



如意ヶ丘

《発行》平成26年12月24日

わが園の
はだれのいまだ
李の花か

庭に降る
残りたるかも

(巻十九 四二四〇)



源平しだれ桃

春の苑
紅にほふ
下照る道に

出で立つ娘子

(巻十九 四一三九)

ごあいさつ



会長
牧亨

立山連峰にも冠雪をいただき、日増しに寒さが厳しき折、会員の皆様にはご健健でお過ごしのことと拝察申し上げます。

今、雨晴海岸では、放射冷却の寒い朝に発生する幻想的な気嵐と立山からの日の出をねらって、連日早朝から多くの写真愛好家が訪れており、冬の風物詩となっています。

今年も残念ながら、8月に広島で大規模な土石流が発生し、続いて9月に御嶽山の突然の噴火によりそれぞれ数十名の尊い命が一瞬のうちに奪われる痛ましい自然災害が発生しました。ここに被災された方々に衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

さて本校が平成17年に特色ある学校を目指して国際交流科校としてスタートして今年は10周年を迎えることとなります。生徒たちは希望する第二外国語(韓国語・中国語・口

シア語)を選択し、日々語学力の向上に努力してきました。

この10年間、歴代の校長先生をはじめ教職員並びに関係各位の熱意と協力によって、生徒達はその成果を直接肌で感じることのできる各国の友好校とのホームステイの派遣・受入事業に積極的に参加をし、将来グローバルな社会に羽ばたけるための貴重な体験をしています。

また、万葉に係わる数々の取組みや、外国クルーズ船寄港時の通訳をする等、幅広いボランティア活動の実践は日々報道されております。

長年の夢であった北陸新幹線が来年3月14日に開通が決定しました。歴史・観光都市、高岡市としての集客力アップと活性化が大いに期待される所です。

終わりに、同窓会として、支援推進委員会と共に今後も交流事業等を中心とした活動に支援をさせていただきますので、会員各位にも変わらぬご協力を賜りたくお願い申し上げます。

向寒の砌、皆様にはご健勝にて新年をお迎えの程ご祈念申し上げます。

石井県知事、高橋市長が来校！



校長
宮崎 豊

如意ヶ丘同窓会会報の第20回記念号の発刊、誠にありがとうございます。如意ヶ丘同窓会の皆様には日頃から、本校の教育活動にご理解とご協力、多大なご支援を賜っておりますことに厚くお礼申し上げます。

また、今年は、本校に国際交流科が設置されてから10年目を迎える記念すべき年にもあたります。記念事業として同窓会からのご支援で、記念誌の発行、記念品の制作、生徒用ロッカーの整備などを計画させてもらっています。重ねて感謝申し上げます。

この記念すべき年に同窓会の皆様には是非お知らせしたい嬉しいことがありました。それは、石井隆一富山県知事と高橋正樹高岡市長が伏木高校にお立ち寄りになり、部活動中の生徒たちを激励していただいたことです。

4月29日、伏木万葉埠頭に寄港した外航クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号の歓迎式典に出席するために伏木地域に来られた石井知事らは、午前中、本校西側にある「伏木ふれあいの杜」で里山整備事業に一生懸命取り組んでおられる「伏木ふれあいの杜管理協力会（会長：山孝之氏、事務局長：新保彪氏）」の皆さんを激励され、竹の子掘りも体験されました。その後、伏木高校へ続く遊歩道を下って伏木高校の生徒玄関前から車で次の会場へ移動されました。その折、グラウンドで練習していた野球部員やソ

フトテニス部員などに直接激励の言葉をいただきました。また、知事、市長には、生徒玄関前にある「府丘越中万葉大壁画」と「府丘越中万葉ランニングコース」をご覧いただき、伏木高校の特色ある活動についても知っていただくことができました。

その時のことを知事は自らのブログに「・・・伏木高校までの丘陵の小道を降りていく途中で、部活動中の伏木高校の野球部や女子ソフトテニス部等の皆さんにお会いしました。私から激励の声をかけましたが、どの生徒さんも大変元気に応じていただき、とても爽やかな気持ちになりました。・・・伏木高校は、伏木富山港を見下ろせる小高い場所にあり、・・・抜群のロケーションに新鮮な驚きを感じました。1300年前、若き国守、大伴家持が近くの勝興寺とその周囲に国府を置いて活躍したのも、往時からの良港である伏木港を見下ろす要地であったことによるものと、あらためて感じ入った次第です。」と書いていただきました。

知事が県立高校を訪問されるのは、竣工式と100周年記念式典など特別な場合のみです。今回は、正式な訪問ではありませんでしたが、知事が立ち寄られたこの日は、伏木高校にとっても、生徒にとって記念すべき良き日となりました。



総会報告

伏木高校如意ヶ丘同窓会

平成26年度、如意ヶ丘同窓会定期総会は、7月12日(土)、16時より伏木福祉会館で開催されました。桑谷副会長の進行のもと、同窓会物故者に対する黙祷が捧げられたあと、牧同窓会長、宮崎校長の挨拶がありました。議事は議長を兼任した牧会長によって進められ、平成26年度の同窓会役員案、事業計画案、会計予算案等、全ての議案が満場一致で承認されました。



続いて、生徒による中国、韓国、ロシアでの語学研修の報告があり、ホームステイを通してたくましく成長している生徒の様子に、会場から盛大な拍手が送られました。

その後の懇親会は、終始和やかな雰囲気で行われました。アトラクションでは、昨年、第15回北日本シニア民謡大賞を受賞された同窓生の大村忠正さん（伏高22回卒）の越中おわら節、本校の小林教頭、越中八尾おわら保存会東新町支部の5名の皆さんの歌、演奏などを披露していただきました。その場の参加者の皆さんも、指導を受けながら、輪踊りを楽しみ、会場は大盛り上がりとなりました。最後には声高らかに伏木商業高校校歌、伏木高校校歌を歌い閉会しました。

平成二十六年度 如意ヶ丘同窓会顧問・役員

| 役 職 | 氏 名 | 回 数 |
|-------|---|-----|
| 顧問 | 之雄 夫太郎 | 14 |
| | 元 孝 幸和 節 一 安進 大敬 | 16 |
| | 元 崎 黒下 原 谷 田 若 須 井 林 嶋 | 3 |
| | 元 山 大 山 吉 濱 横 盤 石 酒 杉 宮 牧 中 山 増 向 小 澤 向 炭 桑 戸 宮 山 牧 山 | 3 |
| | | 9 |
| | | 3 |
| | | 13 |
| | | 20 |
| | | 38 |
| | | 6 |
| | | 12 |
| 支 部 長 | 伏 木 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 | 16 |
| 支 部 長 | 伏 木 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 | 17 |
| 支 部 長 | 伏 木 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 | 18 |
| 支 部 長 | 伏 木 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 | 22 |
| 支 部 長 | 伏 木 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 | 22 |
| 支 部 長 | 伏 木 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 | 26 |
| 支 部 長 | 伏 木 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 | 26 |
| 支 部 長 | 伏 木 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 | 27 |
| 支 部 長 | 伏 木 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 | 30 |
| 支 部 長 | 伏 木 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 | 37 |
| 支 部 長 | 伏 木 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 | 39 |
| 支 部 長 | 伏 木 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 | 40 |
| 支 部 長 | 伏 木 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 | 43 |
| 支 部 長 | 伏 木 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 | 10 |
| 支 部 長 | 伏 木 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 | 15 |

関西支部 便り

事務局長 山岡 巖 (伏高16回卒)

平成25年度総会を9月28日(日)11時より、大阪なんばの「道頓堀ホテル」に於いて、同窓会本部より澤武副会長、母校より宮崎学校長を来賓としてお迎えし、総勢31名の参加で第18回如意ヶ丘同窓会関西支部総会が開催された。

冒頭、全員起立し校友の物故者へ追悼の黙祷が行われた。杉林支部長の開会の挨拶があり、続いて、澤武副会長からは『母校の中央・南校舎の外壁を50年ぶりに改修工事を行った事、氷見漁港に「ひみ番屋街」が出来、伏木の町が観光ルートにも入り賑わいを取り戻している事』等々、宮崎学校長からは『中国、韓国、ロシア、米国の他にも多くの国々の青少年と相互国際交流を行っている事、多くの生徒が地域のボランティア活動に積極的に取り組んでいる事、石井富山県知事が「伏木ふれあいの杜」視察の後、我が母校にお立ち寄

りになり部活動中の生徒を激励された事、又、その日伏木港初入港の豪華客船「ダイヤモンドプリンセス」の通訳ボランティアとして活躍中の女子生徒と親しく記念撮影をされた事』等々のお話を頂き議事に入った。

杉林支部長を議長に選出し、平成25年度の事業報告を山岡事務局長から、収支報告が奥会計から説明、川田副支部長(兼)会計監査から監査報告が有り、続いて26年度の事業計画案・収支予算案が上程され、それぞれ全会一致で可決承認され、平成26年度の如意ヶ丘同窓会関西支部の活動がスタートした。

澤武副会長より、関西支部への活動助成金が杉林支部長に授与され、一同拍手で謝意を表した。記念撮影の後、母校への誇りを忘れず、会員の拡大・会の発展に尽くすべく決意を

新たに総会は終了した。

懇親会は、澤武副会長による乾杯の発声で開宴となった。総会初参加者の紹介・挨拶、近畿高岡会「おわら風の盆倶楽部」の方々を交えて、各自昔話に花を咲かせ、副会長・学校長は各テーブルをまわり支部会員と親しく語られ、和やかに懇談の輪が各所で広がり盛り上がった。

余興は、竹本照子さん（高14商）のすばらしいマジックショーがあり、人気の「とやま産品争奪ジャンケン大会」に移り、各自がます寿司、いかの黒作りとぬかいわしなど故郷の産品を手にして自宅に戻り、家族と共に故郷の思い出話にふけり楽しく味わった事でしょう。やがて皆さんが期待の「越中おわら踊り」をおわら風の盆倶楽部の方々と一緒に、全員で踊り楽しみ2時間半にも及んだ懇親会も余韻を残しつつ、終幕を迎えた。

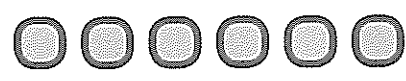
伏木商業学校・伏木高等学校の校歌を全員で声高らかに斉

唱。呉谷英治さん（高2商）による応援歌、川田副支部長の閉会の挨拶、最後に秋元特別幹事の力強い恒例の「一本締め」で、懇親会は大盛会の内に幕を閉じた。

母校の益々の発展を祈念しつつ、お互いの健康、変ることのない友情に感謝し、再会を約した。



関東支部 便り



事務局長 山岸 清 (伏高17回卒)

第18回関東如意ヶ丘同窓会総会

平成26年4月10日、さくら散り始めた都心市ヶ谷の「アルカディア市ヶ谷」で、第18回関東如意ヶ丘同窓会総会が総勢36名出席のもとで開催された。

母校より松井均副校長、同窓会本部より牧亭会長を迎え、総会は定刻、金子副会長の司会進行のもと行われた。冒頭、酒井会長の挨拶に先立ち、会員物故者への黙祷を捧げた。挨拶ではご多用の中、総会に出席戴いた来賓の方々を心込めての紹介があった。続いて20有余年の長期デフレ不況に対する安倍新政権への期待と、自身の新事業推進の経過と将来に対する意欲を説明披露された。

議事に入り、はじめに山岸事務局長より25年度事業報告及び26年度事業計画の説明及び役員改選期における山田實

副会長・松原遼子常任幹事の就任と深原副会長退任の報告、北山会計長からの会計報告、岸監査からの監査報告があり、満場一致で承認され、議事は全て無事終了した。

来賓挨拶では、稲場伸也東京富山県人会連合会副会長・同会の山田郁子婦人会会長の祝辞を戴く。続いて牧会長の挨拶で同窓会の近況を兼ねての祝辞があり、締めの挨拶を松井副校長から頂戴した。78ページに亘る新聞切抜き記事等で母校の活動状況を詳細に説明され、母校の国際交流科の特色ある教育活動が文化活動・スポーツ活動の分野に礎を置き、勢力的に専心努められている内容に共鳴を感じ、さらなる発展を期待した次第。

二部懇親会は山岸事務局長の司会で進行され乾杯に先立ち、吉田常任幹事が「たてやま」を朗々と謳い上げ、参加者全員がほれほれと聴き入った後、東京富山県人会連合会常務理事・事務局長東豊昭氏の声高らかな発声で乾杯、歓談に入る。

歓談が進む中、恒例の余興になり、浜副会長「テイチク専属歌手」の郷土の歌謡で盛会に・山中節・帆柱起こし・越中おわら節等々輪踊りも広がり盛会裡を迎え、母校の発展を祈念、鶴谷副会長のリードによる母校今後益々の発展を祈願して全員での万歳三唱、お返しに松井副校長より関東如意ヶ丘同窓会の発展と参列者各位の健勝を祈念し、万歳三唱のエール交換後、林副会長の閉会挨拶で散会となった。



同窓会報告

タイムマシーンに乗って(第35回卒業生同窓会)

松林 喜寛 (伏高35回卒)

50歳を迎える節目にあたり、9月14日に雨晴温泉磯はなびにて32年ぶりに昭和57年度卒業の合同同窓会を開催しました。

恩師3名をお招きし、総勢60名弱と規模は小さいながらも活気ある会となりました。

先生方のお元気なお姿を拝見してまずは一安心。と同時に自分らのことは棚に上げ「先生、歳とったねえ・・・」の声があちこちから。

そういえば我々も今日まで成功あり失敗あり笑いあり涙ありの日々、顔にはたくさんの年輪が刻まれてきました。でもさすが同窓生、あっという間にタイムスリップして全員そろって高校生になっていました。

思い出話に花を咲かせながらも、最近のこととなれば“健康問題”おいおいちっとも高校生ではないではないか！そこ

へ先生からの助言が・・・やはりいついつまでも先生は先生なんだと改めて感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。

スライドショーで懐かしむ高校時代、ご逝去された恩師・同級生へ黙とう、校歌斉唱涙と笑いが入り混じった2時間が疾風のように駆け抜けていきました。

お互いの連絡をケイタイで交わすところが高校生らしく一同苦笑い、今回は「赤い服を着て」をみんなで誓い、元気に過ごす約束をしました。

タイムマシーンに乗って1泊2日の小旅行でしたが、みんなの笑顔というごちそうで心が満腹のいい旅となりました。



国際貿易港である伏木港を眼下に望む本校は、昭和2年に伏木商業学校として創立以来、昭和43年度に貿易科を設置、昭和59年度には普通科に国際コースを設けるなど、長年にわたって国際理解教育を推進してきました。

富山県と環日本海諸国との交流が盛んに行われる中、平成17年4月、伏木高校に県内で初めての国際交流科が設置されたことに伴い、これまでの米国、ロシアに加えて、中国、韓国の友好校との交流も開始しました。

伏木高校では全生徒が必ず第2外国語として中国語・韓国語・ロシア語のいずれかを選択するとともに、2年次には中国・韓国・ロシアの友好校を訪問します。ホームステイを中心とした海外体験を通して、外国語のコミュニケーション能力や国際的な視野を養い、高校生の環日本海交流の一層の推進に努めています。

また、サッカー部では、競技力の向上とスポーツを通じた日韓親善を目的に、平成14年度から韓国との交流を行っています。



「国際交流科設置」

国際交流科初代校長 西井 秀子 (H14～H17)

古の府丘を彷彿とさせる万葉装束、それを纏った生徒、校長先生による学校行事、伏木富山港に入港する豪華客船の観光客をアシストする生徒の活躍、もちろん恒例の海外語学研修派遣と友好校の受け入れ事業、そして、これらの貴重な体験を地方紙「北日本新聞」の「読者のひろば」への投稿等々、伏木高校「国際交流科」の生徒たちの活躍は目を見張るものがあります。

こうした生徒たちの活躍は、いつも熱い眼差しで応援してくださる地元伏木住民と、有志の方々によって新たに設立された「伏木高等学校支援推進委員会」に支え

られていることは特筆すべきでしょう。新時代を生きる力を育む「国際交流科」の大きな目標、「国際社会に活躍できる人材育成」を掲げてこの10年、一步一步着実に前進していることを、私は、嬉しくそして頼もしく見守っています。これからはますますグローバル化する社会、伏木富山港から旅立つ船のように、生徒たちが力強く未来に羽ばたいていく学校として一層発展していくことを念じています。





「伏木高校での学び」

沈 道静 (伏高 61 回卒)

私は伏木高校を 2009 年に卒業しました。現在は、中央大学大学院法学研究科で国際政治学を学んでおります。私の名前から分かるように、私は中国出身ですが、伏木高校での学びは私の人生に大きな影響を与えたものでした。

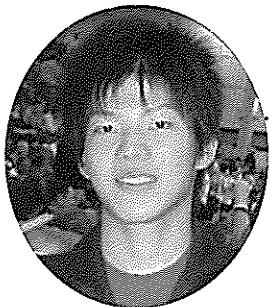
伏木高校はとても魅力的な学校です。1つは、「多様な知識を学べる、世界に近い高校」であるからです。伏木高校では、普段の勉強の他にも、中国語・韓国語・ロシア語など多様な言語を学ぶ環境を私たちに提供しています。また、国際文化の理解をより深めるために、海外研修プログラムも充実しています。これらの伏木高校の制度的基盤を活用すれば、高校生のうちから語学力を高め、国際的な視野を広げることができます。同時に、自分と異なるアイデンティティや文化的背景をもっている人と共存するための協調性、そして平和を愛する心を日常の中から培うこともできます。これらの資質は日本のみならず国際社会で活躍するために必要な力であることは言うまでもありません。

2つは、「生徒の夢や目標を全力でサポートする先生たち」の存在です。私は、卒業してから、伏木高校の学生に対するサポート体制がとても充実していたと改めて感じます。普段の勉強や進路指導、そして多様なコンテストへの参加の奨励まで、幅広く指導をして下さる先生たちが伏木高校にはいます。私は高校 2 年生の時に、国連主催のスピーチコンテスト

に参加しました。それは、来日して間もない私にとって初めての全国大会であったため、とても不安を感じました。ここで支えてくれたのが先生たちでした。多くの激励の言葉からパフォーマンスをする時の具体的アドバイスに至るまで、丁寧な指導をしてくださいました。全国大会で入賞し、その副賞として、自分の憧れであったニューヨーク国連本部を訪問することができたのも一人の力では決して叶えられるものではありませんでした。

進路指導に関しても同様です。私は 2 年生の早い段階から適切な指導を受け、入学したい大学を早めに絞り込みました。その結果、自分の第一志望である大学に推薦入試で合格し、入学後には大学の特別奨学生に選ばれました。より専門的な知識を勉強したいと思い、大学院にも進学しました。去年の 12 月から今年の 5 月、約半年をかけて就職活動をした結果、第一志望である商社から内定を頂くことができました。来年の 4 月からは一人の社会人として、国際社会で活躍できる人材として頑張っていきたいと思っています。

先生方は生徒たちへの愛情と、未来を担う人間を育てるという気概にあふれており、共に学ぶ仲間たちは、自らの目標に向かって切磋琢磨していく親友でもあり、ライバルでもあるのです。最も成長できる時期を一緒に過ごすことで強い絆が生まれ、一生涯の宝となること間違いなしです。後輩たちにもぜひこの人生の中で最も輝かしい高校時代を伏木高校で楽しんでもらいたいです。



牧野 翔太 (旧姓：蓑) (伏高 62 回卒)

伏木高校国際交流科が、このたび記念すべき設立 10 周年を迎えられましたことを、心より御慶び申し上げます。私が第 3 期生として入学したのが 2007 年になりますが、当時は国際経験を積める学科は県内では珍しく、海外で働きたいと夢見ていた私にとっては最高の環境でありました。

伏木高校に入学し初めて中国に行ったのは、1 年生の夏でした。初めての海外旅行で、中国語は挨拶程度しかできませんでしたが、通訳の方が中国語を話すのを見て、その姿が非常に格好よく、自分も必ず話せるようになりたいと思ったことを覚えています。この旅行で中国語の魅力を感じ、伏木高校では 2 年生の時にスタートした授業で基本となる単語と文法を学び、中国語スピーチコンテスト、ホームステイの受け入れ、語学研修などの豊富な課外活動に積極的に参加し応用していくことで、私は着実に中国語力を伸ばすことが出来ました。今思えば、伏木高校は語学を学びたい人に様々な機会が用意されており、他にはない国際感覚を身につけられる本当に良い環境だったと思います。

卒業後は、少しでも早く海外で働くことができる人材になりたいとの思いから、国際社会全体を広く学ぶことができる金沢大学の国際学類に進学しました。大学では、ビジネス中国語や、中国映画を使用した授業などが開講されており、あらゆるシーンの中国語に触れることが出来ました。

しかし、伏木高校のように定期的に中国人と交流する機会はなかなかありません。大学生生活は高校と違い自分から積極的に行動を起こさなければ平凡なものになってしまいがちです。伏木高校時代の経験から、何よりも語学力を向上させるのは実際にネイティブの人とコミュニケーションをとることが最も効率的だと考えていたので、私は自ら中国語サークルを結成し、中国人と日本人ともにウィンウィンな言語交換という方法で、中国人と身近に触れ合える環境づくりを実現しました。これにより、中国人の友人が増え、最近のできごと、悩み相談などをお互いに中国語もしくは日本語でする機会ができ、語学力が向上するだけではなく中国人との付き合いかたも次第に理解することができました。

高校から現在に至るまで、海外を舞台に働きたいという思いを自分の軸としてきました。もちろんこれからもそうしていくつもりではありますが、これまでの学生生活を振り返ると、大学 3 年生のときには半年留学もさせていただったので、挑戦したいことはほとんど実行してきたのではないかと考えています。それだけ良い環境に身を置けたということで、周りの方には本当に感謝しております。

私は今年の春より北陸銀行に入社し、社会人のスタート地点に立ちました。1 からのスタートである中、伏木高校時代から続ける中国語は今でも財産となっています。現在の目標は、北陸企業の海外進出支援等の国際業務に携わる

特集 国際交流科設置10周年

ことです。しばらくは海外と縁のない日々を送ることになりますが、いつしか実現させる日まで、熱意を持って日々の仕事に励みたいと思います。最後に、後輩に一言添えるのであれば、どんな小さなものでもいいので、1つ以上の目標を持ち続けることです。目標に向かって取り組む努力はい

つか必ず報われるものです。学芸員になりたい、先生になりたい、海外で働きたい。まずは、その強い思いを大切にしてください。そして何事にも積極的に取り組んでください。

「国際交流科」10周年を迎えるにあたり

伏木高校支援推進委員会 事務局長 山下 利一 (伏高15回卒)

平成17年4月よりスタートした「国際交流科」設置に努めていただいた、西井秀子前校長、田中春男、豊田久正、宮崎豊現校長、またこの間、設置に尽力された先生方のご苦勞に対し、感謝を申し上げますと共に10周年記念を心よりお祝い申し上げます。

全国でも極めて特長のある新科である国際交流科は、第二外国語(中国語、韓国語、ロシア語)を選択し、2年生に選択した言語の国の友好校にホームステイを行い、語学研修や異文化体験をする学科です。友好校の生徒さんが伏木高校訪問の際、ご父兄の理解と協力の下、受け入れ学生のホームステイを実施されてきたことも感謝にたえません。

「国際交流科」の『豊かな心と健やかな体で学問、スポーツ、芸術に打ち込み、志高く世界を見つめる人間を育てる』の教育目標のもと教育方針、育てる生徒像をかげ、日々生徒育成に努めています。

以上のように教育現場や各ご家庭の皆様方が頑張っておられることを考えたとき、地域住民やOBとして協力

可能なことはないか思慮した結果、伏木の唯一歴史のある伏木高等学校(国際交流科)が直面している問題並びに地域の活性化も踏まえ、教育環境の整備、改善、充実を図る目的で、地域の有識者、法人、諸団体のご理解、協力の下、企画、立案し、平成23年7月に「伏木高等学校支援推進委員会」を設立いたしました。友好校学生受入(伏木高校訪問)の際、concept「地域挙げての歓迎会」のもと、地域の保育園、幼稚園、小学校、伏木錬成館、伏木児童館等のアトラクション参加をいただき、4回にわたる交流を盛大に実施しております。友好校の学生さんも園児、小学生の皆さんと交流し、楽しんでいきます。また、アトラクションに参加された父兄や、園長、校長様より良い体験をしたと感謝の弁もいただいております。現在は本来の目的達成を目指しているところです。今後も如意ヶ丘同窓会や地域の皆様方と協力し、伏木高校の後方応援部隊として頑張っていく所存です。

最後に伏木高等学校「国際交流科」が今後ますます発展されることを祈念したいと思います。

伏木高校支援推進委員会 歓迎会 実施状況

| 月 日 | 対象校(教員) | アトラクション参加 | 備 考 |
|--------------|----------------------|---------------------------------|-------------------------|
| H23.12.13(火) | 中国 34(2) 韓国 38(3) | 帆柱起祝い歌 踊り 伏木小学校 舞 伏木錬成館 舞 | 伏木福祉会館ホール 参加者総数 250名 |
| H24. 7.23(月) | 中国 32(4) 韓国 34(4) | 伏木保育園 踊り 古府小学校 舞 | 伏木福祉会館ホール 参加者総数 200名 |
| H25. 7.22(月) | 韓国 38(3) | 帆柱起祝い歌 踊り 伏木児童館 踊り | 伏木福祉会館ホール 参加者総数 150名 |
| H26. 7.28(月) | 中国 17(2) 韓国 11(2) | 古府保育園 踊り 太田小学校 舞 | 伏木福祉会館ホール 参加者総数 180名 |



| | | | | | | | | | | | |
|---------------------------|---------------------------------------|---------------------------|---|---|---|------------------------------------|--|-----------------------------------|---|---|---|
| 三北 回 高代 卒 表 山下和夫 | 三北 回 高代 卒 表 富山大学名譽教授 吉原節夫 | 八北 回 高代 卒 表 松長一雄 | 九北 回 高代 卒 表 東光産業(株) 代表取締役 布野彰一 | 十伏 回 高代 卒 表 日光商事(株) 代表取締役 戸澤克行 | 十伏 回 高代 卒 表 社会福祉法人 理事 伏木会 牧野貞夫 | 十伏 回 高代 卒 表 取締役会長 上野宏芳 | 十五 回 高代 卒 表 フシキ住設(株) 代表取締役会長 中山勝儀 | 十五 回 高代 卒 表 静富茶園 山下利一 | 十六 回 高代 卒 表 東光運輸(株) 代表取締役 牧亨 | 十七 回 高代 卒 表 高岡市商店街連盟 事務局長 中島貞之 | 十八 回 高代 卒 表 東洋通信工業(株) 代表取締役 山口正志 |
|---------------------------|---------------------------------------|---------------------------|---|---|---|------------------------------------|--|-----------------------------------|---|---|---|

同窓生寄稿欄

「教育実習を終えて」 玉井 透 (伏高63回卒)

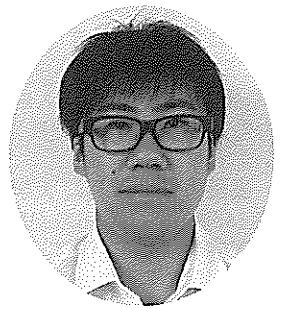
私は5月下旬から4週間、伏木高校で教育実習を行わせていただきました。生徒と仲良くやっていけるのかという不安が実習開始前日まで私を襲っていました。

実習が始まって一週間は、13Hを含め、生徒とできるだけ触れあうためにはどうしたらよいかを考え続けました。私は授業を円滑に進めるためには、集団としての生徒理解が必要不可欠であると考えていたからです。私は時間の許す限り様々な先生の授業を見学し、先生のどんな授業の流れが生徒を集中させるのか、授業開始何分後にどのような発言で生徒を楽しくさせているかなど自分なりに研究をしてみました。授業を受けているときの生徒に話しかけて個別指導をすることもありました。その中で大きな発見がありました。それは、一人ひとりの知りたいという欲求が大きいということです。しかし、知りたいという欲求があるけれど周囲に聞けない、という状況が多々ありました。特に数学の授業ではそれが顕著にあらわれていました。周囲に聞くことで、教える側、教えられる側の双方が理解を深められるだけでなく、生徒同士の交流にもつながります。実習を通して生徒の状

況を把握し、生徒のためにどのように行動していくかを考え続けていくことが大切であるということを学ばせていただきました。

また、教育実習を通して自らが高校生であった頃には知ることができなかった教師の姿も知ることができました。体育大会においては、先生方のきめ細やかな配慮も垣間見ることができ、私も高校生時代は先生方に支えられて生活していたという実感が湧いて、改めて教師の素晴らしさを感じました。

教育実習生として過ごした伏木高校での生活は私にとってとても充実していました。指導教官である島田先生をはじめ、すべての教職員の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。最後になりましたが、伏木高校の更なるご発展を心よりお祈り申し上げます。



「教育実習を終えて」 南 堅斗 (伏高63回卒)

私は5月26日から6月20日にかけての4週間、母校である伏木高校で教育実習をさせていただきました。3年間毎日毎日通いつめたなじみの深い母校での実習は、かねてより望んでいたものでした。

4週間の教育実習では、授業見学や授業実施、部活動などを通してさまざまなことを学ぶことができました。私は保健体育

が専門教科なので、保健と体育の授業を担当させていただきました。体育の授業では男子の器械運動や女子の陸上競技などの授業を行い、幅広い内容で多くの経験を得ることができました。保健の授業では2年生の授業を担当させていただき、慣れない教壇に立って生徒に注目される中で話したり板書したりすることに緊張したりもしましたが、少しずつ慣れていき自分の行いたい授業ができるようになりました。どちらの授業においても、生徒が理解しやすいように要点やコツなどを伝えることがとても難しく、改めて生徒の学びの場において教えることの難しさを実感することができました。

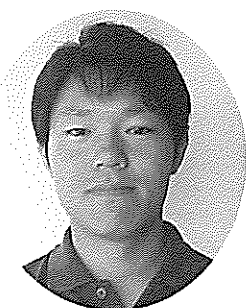
伏木高校に在学していたときは、所属していた野球部

での部活動を中心に3年間の学校生活を送っていました。その中で学習はもちろんのこと、挨拶、身だしなみ、礼儀などの学習以外の多くのことを学ぶことができました。伏木高校は挨拶がとても盛んに行われており、野球部がさらに挨拶を徹底していたこともあって、3年間で身につけることができた正しい挨拶が、卒業後も進学した大学の活動や私生活などにも大きく活かされています。当たり前のことですが、当たり前のことを当たり前にできるようになったことが、伏木高校での学校生活を通して成長した部分だと感じております。

教育実習中は、部活動にも多く参加させていただき、在学していたときの活動との違いや指導する立場であることに戸惑いながらも、頑張っている生徒や熱心に指導されている先生方を見て、自分なりに積極的に参加することができました。

私は伏木高校を卒業してから幾度となく卒業生として足を運びましたが、今回はこれまでとまったく異なる立場の教育実習生として4週間通いました。顔見知りの野球部の生徒以外にも担当したクラスや授業の生徒や先生方と多くコミュニケーションをとることができ、今後2度とない貴重な経験をすることができました。

最後になりましたが、これからの伏木高校の益々のご発展をお祈り申し上げます。



| | | | | | | | |
|--------------------------------|-------------------------------|------------------------------|-----------------------------|-------------------------------|---------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| 三十三回卒 代表取締役 増井 修 | 二六回卒 代表取締役 小泉 哲二 | 二六回卒 代表取締役 澤武 博 | 二七回卒 院長 井上 人士也 | 二七回卒 代表取締役 島田 博司 | 二七回卒 代表取締役専務 松嶋 浩二 | 三十七回卒 代表 条谷 正利 | 四十回卒 代表取締役社長 宮越 一郎 |
| (株)マスイ 代表取締役 増井 修 | 二六回卒 代表取締役 小泉 哲二 | 二六回卒 代表取締役 澤武 博 | 二七回卒 院長 井上 人士也 | 二七回卒 代表取締役 島田 博司 | 二七回卒 代表取締役専務 松嶋 浩二 | 三十七回卒 代表 条谷 正利 | 四十回卒 代表取締役社長 宮越 一郎 |



～平成 25 年度 進路状況～

進路指導部 浜木 健繁

国際交流科の第7期生の進路状況は右記のようになりました。

国公立大学合格者は、1期生9名、2期生4名、3期生4名、4期生11名、5期生5名、6期生4名です。進学に関しては、推薦入試、AO入試、センター試験利用入試等様々な形があります。それぞれに対応したきめ細かい指導の結果、各自の希望をかなえられるようにしています。

進路先については、大学短大進学者51名のうち県内進学者が24名(47%)、石川県6名(12%)、関東方面6名、中部方面7名、近畿方面6名となっています。また、専門学校進学者46名中の23名が県内(50%)となっています。

就職に関しては、年々明るくなっています。特に男子の求人が大変多くなっています。

生徒の個々の能力に合わせ、最善の進路を選択できるよう教職員一丸となって努力しています。

同窓会の皆様には、本校生徒の進路実現のため一層のお力添えをよろしく願います。

平成 25 年度 大学等進路状況 (延べ数)

| 進路先 | 合格者数 | 学校名・企業名等 |
|----------|------|---|
| 国公立大学 | 4 | 新潟県立・都留文科・富山・高崎経済 |
| 私立大学 | 37 | 青山学院・帝京・明治学院・湘南工科・群馬バース・愛知学院・愛知工科・愛知工業・名古屋商科・岐阜聖徳学園・中部・名古屋文理・高岡法科・富山国際・金城・金沢学院・金沢星稜・北陸・北陸学院・仁愛・京都橘・大谷・関西外国語・甲子園 など |
| 短期大学 | 26 | 富山・富山福祉・大月・岐阜市立女子・金城・関西外国語・奈良技術・金沢星稜・大妻女子 など |
| 専門学校 | 47 | 富山外国語・高岡市立看護・高岡市医師会看護・富山赤十字看護・高岡第一学園幼稚園教諭保育士養成所・富山病院付属看護・富山歯科総合学院・富山県立保育専門学校・富山県理容美容・富山県技術専門学校・富山情報ビジネス・富山大原簿記法律・七尾看護・大原デザインカレッジ・日本外国語・金沢美専・文化服装学院・国際ペット など |
| 文部科学省管轄外 | 4 | 北陸職業能力開発大専科・職業能力開発総合大専科 4年制 |
| その他 | 3 | 雄峰高校専攻科・富山高専(編入)・韓国弘益大学校語学院 |
| 就職 | 13 | 北陸電力・オプテス・伏木海陸運送・北陸アルミニウム・旭東機械・日本成工・富山いすゞ自動車・金原開発株式会社・中黒建設・大栄自動車・COUP・自衛隊 |

部活動報告

Fushiki High School

◇◇◇ 平成26年度部活動の記録 ◇◇◇ (平成26年3月～11月)

〈体操部〉

富山県高等学校春季大会体操競技

| | | |
|----------|-----|-----------|
| 男子種目別平行棒 | 第1位 | 原 佑樹 (3年) |
| 男子種目別鉄棒 | 第1位 | 原 佑樹 (3年) |
| 男子種目別つり輪 | 第1位 | 原 佑樹 (3年) |
| 男子個人総合 | 第2位 | 原 佑樹 (3年) |

富山県高等学校総合体育大会体操競技選手権大会

| | | |
|----------|-----|-----------|
| 男子種目別鉄棒 | 第1位 | 原 佑樹 (3年) |
| 男子種目別平行棒 | 第1位 | 原 佑樹 (3年) |
| 男子種目別跳馬 | 第1位 | 原 佑樹 (3年) |
| 男子個人総合 | 第1位 | 原 佑樹 (3年) |

富山県スポーツフェスタ第67回富山県民体育大会体操競技

| | | |
|----------|-----|-----------|
| 鉄棒少年男子の部 | 第1位 | 原 佑樹 (3年) |
|----------|-----|-----------|

〈卓球部〉

第9回高岡市民体育大会

| | | |
|------------|-----|------------|
| 卓球競技少年少女の部 | 第3位 | 長澤 紀香 (1年) |
|------------|-----|------------|

〈インターアクトクラブ表彰〉

竹内 友輔 (3年)

〈第61回国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール富山県大会〉

優秀賞 鈴木 馨元 (3年)
佳作 コグレサユリ (1年)

〈第34回全国万葉短歌大会 ジュニアの部〉

優秀賞 菊池 和希 (2年)

〈琴部〉

第25回富山県高等学校 日本音楽演奏会 優秀賞 琴部

〈第13回岐阜女子大学全国書道展〉

特賞 高藤 魁弥 (1年)
特賞 挽 ありさ (1年)
特賞 高谷 知美 (3年)
奨励賞 高浪菜津希 (1年)

〈第32回全日本中国語スピーチコンテスト富山県大会朗読の部・高校生部門〉

第3位 中田 真子 (2年)

〈第16回富山県高校生英語プレゼンテーションコンテストスピーチ部門〉

奨励賞 ケンタロウがわり (1年)

ゴルフ大会報告

第29回 如意ヶ丘グリーン会

参加者 60名

| | | | | |
|---------------|----|---------------|-----|---------------|
| 開催日: | 優勝 | 小泉 哲二 (伏高26回) | 9位 | 宮崎 明 (伏高16回) |
| 平成26年4月12日(出) | 次勝 | 廣野 辰之 (伏高23回) | 10位 | 田中 清 (北高9回) |
| 開催場所: | 3位 | 関口 稔宏 (伏高25回) | 11位 | 桑谷 正利 (伏高37回) |
| 氷見カントリークラブ | 4位 | 沖野 栄二 (伏高19回) | 12位 | 橋本 英司 (北高8回) |
| | 5位 | 飯沢 隆夫 (伏高12回) | 13位 | 垣内 浩之 (伏高30回) |
| | 6位 | 松長 一雄 (北高8回) | 14位 | 高橋 明夫 (北高8回) |
| | 7位 | 鶴井 孝行 (伏高19回) | 15位 | 浜井 幸啓 (伏高11回) |
| | 8位 | 海老 邦明 (伏高23回) | B G | 田中 清 (北高9回) |

第26回 富山県高校OB対抗ゴルフ大会

期日:平成26年6月1日(日) 場所:高岡カントリー倶楽部
母校の名譽をかけ、熱戦が繰り広げられ、我が校は大健闘し、参加29校中、見事準優勝に輝きました。

| | | |
|-------|---------------|---------------|
| 〈出場者〉 | 館 良成 (伏高32回) | 澤武 博 (伏高26回) |
| | 桶谷 実行 (伏高20回) | 柳澤 昌文 (伏高25回) |
| | 増井 修 (伏高22回) | 向 慶荘 (伏高23回) |
| | 廣野 辰之 (伏高23回) | 戸澤 秀行 (伏高39回) |

INFORMATION

①寄稿の件 本会報に掲載する原稿を募集致します。
(学生時代の記憶に残る体験、経験談、思い出話等) 皆様のご協力を頂き、より充実した紙面を目指していきたいと思っております。なお、原稿は1,000字以内でお願いします。

②会報広告の件 会報広告を募ります。皆様方のご協力をお願いします。

③如意ヶ丘グリーン会参加者募集 毎年4月第2土曜日

④学校のホームページと同窓会のメールアドレスです。ご利用下さい。

ホームページ <http://www.tym.ed.jp/sc354/> メールアドレス dousoukai@fushiki-h.tym.ed.jp

⑤同窓会の総会等が伏木高校のHP上にてアップしています。是非ご覧下さい。

受付窓口 富山県立伏木高等学校 事務局 TEL0766-44-1514 FAX0766-44-1707

編集後記

- ・今年、「国際交流科」の10周年を迎える年であり「特版」を組みましたところ、貴重な寄稿を戴き、誠に有難うございました。
- ・会報は、同窓会員の情報や本部、支部の活動、在校生の活躍ぶり等を報告することに努めており、本会報に記載する原稿を募集しています。今後とも宜しくお願い申し上げます。

発行責任者 山下 利一